

長泉町・さわやかハイク報告書

通算山行 NO	個人山行	報告者	石和加代子
年 月 日	2009年11月08日(日・晴)	2万5千	富士山
山 名	富士山・剣ヶ峰(3776m)		
体力度＝・ 度＝良い	技術度＝・ 三角点＝二等三角点	道標＝ある 駐車場＝あり トイレ＝駐車場 展望	点名＝富士山
初冬の静かな富士登山			
コース とタイム	富士宮口新五合目登山口6:10－新六合目6:28－新七合目7:20－ 八合目8:53－九合目9:52－九合五勺10:35－浅間大社奥宮11: 30－剣ヶ峰頂上11:41－浅間大社奥宮11:50－新五合目登山口着 15:00－長泉16:30		
標 高 差	上り・・・富士宮口新五合目2400m～剣ヶ峰3776m＝約1376m 下り・・・ 同上		
参 加 者	L 後藤隆徳(62)・村上美恵子・石和加代子		

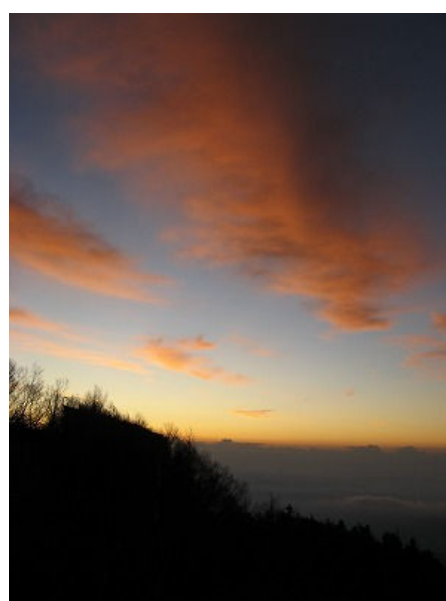
「テント使用による山行」は山麓で経験を積んでから、というのが学習会でのことでした。それがなんと富士山五合目でテントをはり、富士山登山をすることになった。正直あわてた。この寒さで五合目にテント！そのあと雪のある富士山を登る？！短期間の紆余曲折を経て、初めの計画通り実行することになった。テント泊で精力を使い果たすだろうから、富士山はまあ登れる所までくらいの気持ちであった。

後藤講師の「4時だ」のひと声で起床。ゆうべの残りのなべに具を加え、具だくさんのみそ汁にし、ご飯を温めたお湯でホットドリンクを各自用意する。朝食をすませると、テントの撤収。まごまごしながらも指示に従い、富士登山モードに入っていく。

きのうの車の混雑は去っていて、朝とまっている数台の車は登山客だろうか。予定より10分遅れの6時10分出発。



石狩鍋をつつく



五合目の朝

富士宮口は、標高2400mからスタートする富士山頂剣ヶ峰への最短コース。登り口には大きな看板と階段があり、その延長上を見上げれば青空をバックに雪をだいた頂上がまるですぐそこにあるよう。きのうまではザックが軽いと思っていたが、アイゼン・ハーネス・ヘルメット・ピッケルと装備を身につけるとけっこうな重さになった。黒砂のゆるい傾斜の広い道を登っていくと、20分ほどで新六合目に着く。まずまず快調。小屋の前を通りそのまま直進すると、宝永火口へのルートになるが、私たちは左へ曲がり、本格的な登山道が始まった。



富士山は八合（3150m）を越えると苦しい



村上さんは気持ちが悪そうだ。砂や溶岩の斜面にジグザグを刻みながら登っていく。地面の砂が赤みがかってくる。七合目から山麓を見下ろすと、富士・沼津の海岸線や伊豆半島がはっきり望める。はるか下に見える山は愛鷹山塊か。やっぱり富士山は高いなあ！だんだん傾斜が急になっていく。雪もでてきた。

八合目の小屋の上でアイゼンをつける。鳥居が遠くに見えてくる。しかし上を見上げると体のバランスがくずれるのは、傾斜が強くなっているからなのか。ひたすら足元をみて一步一步登っていく。村上さんは体調が良くなったようだが、私はどうも体が重い。最後の急斜面を登り切り、鳥居をくぐって浅間大社奥宮富士宮口頂上にやっと到着。

ところが「急げ！雲が出てきたぞ」と後藤講師の無慈悲なお言葉。即、急坂の雪の馬ノ背を登って剣ヶ峰へ向かう。足を向けてはみたが、どうにも急いで往復なんてできそうにない。私はあきらめた。後藤講師と村上さんは果敢にも10分で剣ヶ峰、日本最高峰に11時41分に到着。私は下山の準備に靴紐やアイゼンを締め直していた。風が強い。あっという間に2人はもどってきた。その間約20分。そしてすぐ下山。村上さんはがんばりました。私はなんだか気持ちが悪い。頭痛はまだない。

アイゼンをつけた八合目より少し下ったところで、はずす指示が後藤講師から出た。ところがなんと、左足につけたはずのアイゼンがない？（そういえばちょっとあれ？という瞬間はあったような…）なんとも情けない。頭がにぶくなっている感じ。しか



待望の富士宮口鳥居



たがない。あとはもう黙々とただひたすら下っていった。ふらついている感じがする。何度かすべった。

新六合目の小屋あたりで、宝永山に行ってきた人や観光客たちのにぎわいができた。登山口へもどってきたのは3時。登り約5時間30分、下り3時間20分。(後藤講師はもっとずっと前に到着) 夏の大勢の人でごったがえす富士山に比べると、初冬のこの時期はとても静かな富士登山になりました。

お天気にも恵まれ、ちょっと前の寒気も去ってよい日でした。ただ、私はまたしても高山病の症状が出てしまい、帰りのくねくねの富士山スカイラインでは吐き気、長泉についても頭痛が去らずまいった。自分自身の目標達成は成らなかった。しいて良かったことを探したら、筋肉痛がでなかったことか。



剣ヶ峰で万歳

越前岳は遥か下に見える

